|<学校経営計画「本年度の取組」> ~大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成~(キーワード:「信頼」「温もり」「笑顔」)

|の構築を図る。

|「確かな学力」:「疑問をもち、考え抜く力」の育成 2「豊かな心」:「思いやりのある心と行動力」の育成 3「健やかな体」:「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成 4 「学校力」:「連携による学校力」の向上

※ 評価は4段階評価です。(4 よくできている 3 できている 2 改善が必要である 1 大いに改善が必要である) 左側の評価は、学校で行った内部評価です。 項目経営目標 本年度の重点 具体的な方策 分析結果 学校運営協議会委員から 評価 改善策 ○討議の場が多く主体的な教育ができていると思う。タブレットの活用は進んでいると思う。 ①授業では必ず「ねらい」と「授業の流れ」 OESD(SDGs)への取り組みが疑問や考える力の育成に良い影響を与えている。また「できる限り生徒の言葉で行う」という点は多いに評価でき を示し、「まとめ」と「振り返り」の時間を設 |①言語活動の充実及び「主 |定する。「まとめ」はできる限り生徒の言葉 *疑問をもち、考え抜くことができていると回答した生 ○「疑問をもち、考え抜くカ」は、次代を生きる子供に求められる最も重要な能力です(メタ思考の力量)。生徒アンケートでも90%を超える結果で ┃体的・対話的で深い学び」 ┃で行う(知識・技能の習得、思考・判断力・ あり、生徒個々の学びの形成が着実に実っていることをうれしく思います。この背景には、個々の先生方が学習指導の基本である<①生徒の学びの 徒84.2%であった。 ○話し合いや教え合いの場面を取り入 の実現に向けた授業改善 |表現力の育成、定着状況を確認)。主体的 |実態把握⇒②目標の設定⇒③教材の選択⇒④「問い」の模索⇒⑤生徒の学びの実際⇒⑥学び合いの往還⇒⑦相互の振り返り⇒⑧自己理解・ |れ、「主体的・対話的で深い学び」の実 ①ねらいやまとめの理解の生徒授業評価の肯定的評 (特に振り返りを重点に) ■な学習に向かう「振り返り」は、カードやタブ 価93.8%、振り返りの場面の設定は生徒授業評価の 現に向けた授業改善。 評価>にきめ細かに取り組んでいる証です。 また、一人1台の端末やICT等を活用した日々の授業実践も有効に作用しているものと考えます。今. ②主体的に取り組む力、思 レット等を活用して、変化等が自身や教員 肯定的評価92.3%となり概ね達成できている。 ○各教科等問題解決的な学習や体験活 ■後も、さらなる改善を継続し生徒との学びを深めることを期待します。 考力・判断力・表現力等を で見ることができるように工夫し、指導と評 動を通して、「協働的な学び」と「対話的 ②概ね計画に沿って実施できた。FCGs (府中五中版) △ICTの積極活用については、学校評価が高くない結果はここ何年か続いていると思います。活用されてない教科や先生にとって、忙しいなかで主 な 考え抜 育成するため、ESD(SDG |価の一体化を推進する。授業内での教え合 SDGs)の取り組みも生徒会各専門委員会でさまざま な学び」の充実を図る。 体的に活用について考えることは難しいと思うので、他校の例でも良いので、学べる機会を積極的にスケジュール化しても良いのではないかと思い いや学び愛の時間を設定する。 s)の視点を取り入れたカリ ○ 一人 | 台タブレット端末等を活用して な工夫を凝らした取り組みが行われている。 キュラム・マネジメントの実 ②各教科·道徳科·特別活動·学校行事等 ③概ね実施できている。各教科でタブレット端末を個 「個別最適な学び」と「協働的な学び」 △与えられる知識だけでなく自分で考える力を育てるということで素晴らしい取り組みをされていると思います。昨年度も同様の意見をさせていただ と関連させたESDカレンダーをもとに、学習 別での学習、協働的な場面での活用が図られている。 の充実を図る。 いたかもしれませんが、事業の内容・性質によってもタブレットの活用度合いが変わることもあるかと思います。先生方も大変かと思いますが、様々な ③一人 | 台端末やICT等を に取り組ませる。また、生徒会を主体とした 授業でのタブレット端末の活用状況は教科によって大 活用方法があると思いますので、より効果的な使用方法を検討してください。 活用した「個別最適な学 「FCGs (五中版SDGs)を推進する。 △クロームブックの使用頻度はどうですか?←活用されない日はありませんが、教員による活用の差が見られます。次年度は教科間、実技教科での きな差が見られた。 ┃び」「協働的な学び」の推進┃③一人┃台端末を活用した授業を一人┃回 研修の中で効果的な活用方法の共有を図っていきます。 以上実施し、有効活用を図りながら個別最 *先生方何人かの授業を参観させていただく機会があり、この事実を生徒のたちの声と先生方の「問い」の実際から理解してます(お礼申し上げま |適な学び、協働的な学びを推進する。 ①生徒指導実践上の視点である「自己存 在感の感受を促進する」「共感的な人間関 【係を育成する」「自己決定の場を提供する」 □○暴力やいじめを許さない人権尊重教育 ○ボランティアに参加する生徒も多く、思いやりと行動がリンクしている。 *思いやりの行動ができていると回答した生徒は93. 「安全・安心な居場所づくりに配慮する」こ の推進を通して、心豊かで他者を尊重する┃○教室内での道徳授業に加え、ボランティアでの体験活動が心と行動力の育成に繋がっている事が読み取れる。 0%であった。 とを、授業はもちろん教育活動全体におい ①「学校や学級に行くのが毎日楽しみですか」の肯定 ○ボランティア活動に積極的に参加するなど、意識の高い生徒がいることは誇りに思います。引き続き、より多くの機会を与えてあげてほしいと思いま ①自分のため、ほかの人の て実践し、生徒の自己指導能力の育成を図 ○教育活動全体において、「自己存在感の ためにもなる行動がとれる 的評価は77.7%であった。自己指導能力の育成を一 感受」「共感的な人間関係」「自己決定の ○地域のボランティア活動では非常に助かっています。初めの方は当然こちらの指示が必要ですが、最終的にはこちらの指示がなくても動いてくれ 自己指導能力を育む生徒 |層図ることを意識したい。 ②「学校いじめ防止基本方針」「いじめ対 場を提供する」「安全・安心な風土の醸 ②道徳の授業は心の成長に役立っていると86.7%か たり、指示以上のことを考えて実施してくれたりしており、普段の学校生活の現れかと思います。来年度もぜひよろしくお願いします。 指導の推進 やりの 応マニュアル」の共通理解、いじめ対策委 成」を実践し、生徒の自己指導能力の育成 回答。また、いじめや暴力のない学校にするよう意識し △職業体験やボランティア活動を通じて将来のビジョンを早い段階で考えていければ行動も変わっていくのではないでしょうか。 ②豊かな心を育む道徳教 員会を中心とした迅速で組織的に対応が ていると92.0%が回答。ローテーション道徳も全学年 育の充実と暴力やいじめを △「思いやり」の評価は、生徒個々の内面性を<みる(見・観・診・視・看>ことから、調査アンケート等の数値で評価することは困難な面があります。こ 3.5 ○道徳科を軸に心の教育を充実させ、自己 できる体制を構築する。また、全学年でロー で実施できた。 の点を念頭に置き、①「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」、②「道徳の授業は心の成長に役立っている」、③「将来の進路について考えている」と 許さない人権尊重教育の推 心力」の の生き方、在り方の学習を通して、自己実 テーション道徳の授業を取り入れ、全教員 ③将来の進路について考えているとの63.3%が回 の3点からその評価を考察すると、それぞれ約6割~8割でほぼ目標達成といえると考えます。あとの2~3割に何があるのか?この理解が教師に求 現を目指す態度を培う。 |が生徒の授業に当たる指導体制を組織す 答。前期に比べて若干であるが向上した。2学期は、3 められるカウンセリング感覚ではないでしょうか?また、とくにいじめ予防の意識が92.0%としている点は評価できます。ここで、注意したいことは残 ③人と関わる中で学ぶ体験 ○カリキュラム・マネジメントの視点で地域 ることで生徒の道徳性を高める。 年生の進路決定の時期が近づいていること、また、2年 や近隣高等学校、大学、専門学校等との連 りの8.0%の生徒の心のケアにも十分に配慮したいところです。何らかの多様かつ複雑な意識にあるものと考えます。養護教諭やスクールカウンセ ③「生き方」を学ぶ機会として、道徳科の授 生での職場体験が行われたことも影響していると考え携を一層充実させ、体験学習やボランティ の充実 ラーなどの積極的な活躍(援助機能の重要性)を願いたく考えます。また、③の視点、将来の進路に関して、総合や特活などの指導においても緻密 業や読書活動、職業に関する学習など、進 |に指導していただけるとうれしく思います。 五中のボランティア活動の実際は、素晴らしいものです。今後も継続してほしいと考えます。この体験が、 ア活動等を推進し、地域社会の一員として 路に関する学習との有機的な関連を図ると ■生徒個々のキャリア形成に大きく資すると理解しています。 自覚できる生徒の育成を図る。 ともに、職業訓練学習や職場体験等様々な 人と関わる中で学ぶ体験的な学習を計画・ 実施する。 *失敗を恐れずに挑戦粘り強く取り組むことができてい ①生徒が中心となって取り組める企画・運 ○生活習慣、規律などは良好である。 ると回答した生徒は79.9%であった。 | 営を行い、教員が支援する中で生徒の主体 ○行事や委員会活動など、生徒が主体と○学校内で生徒から積極的に挨拶できる点は評価できます。生徒会活動にもこの委員会が積極的に関わりを持つことができれば、親や先生でない ①生徒が主体的に取り組む|性を育む。 【なって取り組み、自己肯定感や自己有用 【大人と接することで、良い刺激になるのではないでしょうか。 んだと84.4%が回答。行事では、生徒実行委員会を主 学校行事や委員会活動の ②家庭・小学校・地域・関係諸機関との連 体とした運営を行った。生徒会では、生徒から提出された尽感を育む活動を充実させる。 ○素人感覚ではありますが、中学校での3年間の経験や精神衛生の状態が今後の人生を大きく左右することになると思います。アンケート結果でも 前に踏一企画と運営 |携を図りながら生徒理解に努め、一人一人 新たな企画を支援しながらできる限り実施できる形をとっ◯○基本的な生活習慣を主体的に身に付◯肯定的な意見が多く、家庭と学校が連携して生徒たちの健全な育成につながっているのかなと思います。 ②基本的な生活習慣の確 を大切にする。学習規律・挨拶・言葉遣い・ 切けさせるとともに、健康と安全についての┃○生徒たちの主体的な活動事実の成果がみられうれしく思います。図書館での蔵書整理のボランティア活動を拝見した際に、その活動実態に学び ている。(能登半島地震募金や3月実施予定の部活動対 し、粘り 立と自分も周りも守る健康 時間を守る・清掃活動などの指導を全校の 抗リレー企画等) 理解を深めさせる。 ました。①~③の評価数値の高さ80数%~90%がその実態を十分に反映しています。ここに、生徒個々には自己肯定などの積極的な内面性が培わ | 3.2 |と安全についての理解と実 | 共通理解のもとに展開し、規範意識の醸成 |②4項目での肯定的評価は、挨拶89.8%、話を聞く態度 |○自立に向けた学びと育ちを支援する特 |れているものと考えます。 や基本的な生活習慣の確立など、健全育 り組め 92.4%、善悪の判断93.3%、清掃への取組95.7で 別支援教育、サポートルーム等一人ひと |③一人ひとりを大切にする |成を推進する。 あった。規範意識の醸成や基本的な生活習慣の確立は りに応じたきめ細やかな支援体 △積極的に取組んでいる生徒への教育や指導はとても良い方向へと導いている。しかしながらいじめのグレーゾーンや不登校など、個々に抱える問 ③生徒理解に努め、不登校対応等、スクー 相談機能の充実と関係機 概ね図られている。 |題が違うので対応への課題が多く感じる。 制を構築する。 関との連携の推進 |ルカウンセラーや家庭と子供の支援員外部 ③学校の適切な相談の生徒の肯定的評価85.6%で |△生徒会ので能登半島地震募金などは、実にタイムリーな取組であり、生徒たちが自ら生きる意味を考える力量に資するものです。その成果や課題 |機関と連携した教育相談機能の整備・充実 あった。今後も、相談しやすい雰囲気作り、寄り添った対 |等を学び合うシンポジウムなどを生徒たちが自主企画する機会を提供したいところです。 応を意識していく。 ①年3回の小中連携の日の充実と、日常的 な連携を推進する。 ○育てたい児童・生徒像「自ら学び、考え ○学校は情報をよく発信できている。 |②学校運営協議会が主体となって「学校支 ┃①年3回の連携の日は予定通り実施できた。管理職 ①育てたい児童・生徒像を ることができる児童・生徒」「思いやりの ┃○運営協議会に出席させていただくなかで、大学生や地域の方と連携し様々なサポートをされている話を聞いており、素晴らしい取り組みをされてい 間は日常的に連携できる体制作りを構築した。 援部」「学校防災部」を立ち上げて取組を 具現化する小中連携の推進 ┃るなと感じます。地域の方々と一緒に五中生を育てていく、また地域自体も成長していくような関係を続けられるよう期待しています。 心をもった、心身ともに健康な児童・生 ②「学校支援部」では地域と連携したボランティア推 推進する。 徒」を具現化する小中連携を一層推進 (情報連携から行動連携 【Oこの「連携による学校カ」のあり様は、開かれた民主社会の学校教育の基盤です。地域社会が学校に何ができるのか?何をするのか?を、生徒た 進を昨年度以上に実施また、夏季休業日・定期考査 ③特別支援教育コーディネーターを中心 ちを支える大人たちが自問自答することです。ここには、地域社会の専門性と学校(教員)の専門性が相互還流する実態が期待されます。 五中で 前に地域未来塾を実施。学校防災部は9月に教職員 こ、ユニバーサルデザインの視点に立った はこの成果がコミュニティ・スクール機能の具体実践から十分にみられます。教員の多忙化が言われる中、どのように教員個々の参画意識を醸成し ②コミュニティ・スクールの ○コミュニティ・スクールの機能を生かし とともに防災ツアーを実施。 |教育環境の整備、ICT等を活用した副籍制 機能を生かした地域連携の た「学校連携支援部」「学校防災部」に ┃ていくのか、学校の管理職だけに偏らない方向を模索したいところです。先生個々のよさや専門性が地域社会にどのように発揮できるのかを問うこ ┃ 3.0 ③拠点校として、学校全体での特別支援教育の推進 度に基づく交流及び共同学習の機会を増 カーカ」の よる地域連携の推進を図る。 とが、生徒の学びの意欲や自らのキャリア形成に大きな刺激になるものと考えます。いわゆる生徒個々が自らのWell-beingを獲得する実際を検証 を図ることができた。サポートルーム経営は、支援員や |やすことを通して、他者と共に尊重し合いな| ○自立に向けた学びと育ちを支援する特 ③一人ひとりの将来に向け |していく経営力の面白さです。この方向性が見えている五中の学校力に信頼を寄せています。 向上 がら共同して生活していく態度、自立しつつ 非常勤教員を活用して週5日(給食後まで)実施して 別支援教育、サポートルーム等きめ細や △小中連携の所で青少対に協力をいただいて事業の取り組みをもっと連携しやすい事業を図ってもいいと思います。 た学びと育ちを支援する特 他者と共に生きる力を育み、将来につなが 居場所づくりを行った。特に、心理を専門とした大学生 △学校内や小中連携の体制は構築されつつあるが、色々な場面での地域との連携が課題となる。 別支援教育の推進とサポー かな一人ひとりに応じた支援体 の関わりでサポートルーム内でのコミュニティが作られ ||る学びができる学校を目指す。また、居場所 制を構築する。 トルームの運営 △まだまだスクールコミュニティとして関われることはたくさんあると思うし、学校よりこう関わってほしいという提案がもっとあっても良いのではないか **■づくりとしてのサポートルームの運営等、個** たことは大きな成果である。 と思います。できるできないは別として、本コミュニティをもっと利活用して良いと思います。 に応じたきめ細やかで組織的な支援体制